



館長だより

山形県産業科学館

令和6年4月18日(木)

発行 館長 加藤智一

4月18日(木)は発明の日

4月18日(木)は「発明の日」。1885年4月18日に、現在の特許法の前身である「専売特許条例」が公布されたことに由来します。特許や意匠、商標など産業財産権の普及・啓発を目的に制定され、日本の産業発展の礎となりました。技術進化や産業構造が大きく転換している現代、ますます知的財産権の重要性はましていると思います。また同時に、こうした特許などの財産をビジネス価値につなげる努力も怠ってはならないと思います。



館長の独り言 「花筏」

桜の楽しみ方は実に様々。桜の名所に出かけては、我が世の春とばかりに咲き誇る桜を愛でて、お団子とかお弁当なんか食べたりして。なかなか乙なもの。最近ではめっきり減りましたが、夜桜よろしく桜の下にシート広げて、気の置けない友人同士でご宴会。これもなかなか良いではないか。ところで皆さんはもう一つの楽しみ方をご存じか。それは「花筏」。水面に漂う桜の花びらを「筏」に例えるなんて、なんと雅なことでしょう。花吹雪を全身に浴びながら、水面を愛でる。

こんな楽しみ方も有りですね。

ところで私先日、福島県は福島市、飯坂温泉に行つてまいりました。湯治ではありませんよ。花見です。とは言つても桜ではありません。桃です桃。福島と言つたらなんといつてもフルーツ大国。特に桃は有名ですよ。桜は散つても、桃は今が盛りなのでした。でも私のお目当ては畑の桃ではありません。「花もも」です。飯坂には、「花もも公園」と「花ももの里」と言う、2か所の名所があります。これもまた良い。しかも、艶やかに咲き誇る花のせいか、見学に来られていた方々みんなが、気さくに声をかけてくれて、心も満たされた一日でした。これからしばらくは、こうした花の匂が次々とやってきます。とっても楽しみです。



館長の読書

これからしばらくは、小川糸作品「ツバキ文具店」「キラキラ共和国」「椿ノ恋文」これら鎌倉を舞台にした連作を通して、私が感じた世界観をご紹介します。こう思います。タイトルは、

「キラキラ光る言葉の発見

鎌倉への誘い」

第一回 「書評カード」

私が書店員のおすすめ本紹介よろしく、これら小川糸作品の書評カードを書くならば、こんな感じになるのかな。

『重くもなく、軽くもなく、普通の人の普通の日常なのだけれど、キラキラと光る瞬間がどこにでもあって、それと同じくらい悲しいことや辛いことがあって、その一つ一つが愛おしくなる作品。あなたも糸さんお気に入りのスイーツを食べながらキラリと光る言葉の発見をしてみませんか。代書屋のポッポちゃん、あなたの人生と誠心誠意向き合います。』こんな感じ。

今回はこれまで、第二回「学校図書館から広がる世界」乞うご期待。